

居宅支援事業所における
ケアマネジメント機能
向上に資する事例検討会

～実践に活かす手引きを活用した研修に参加して～

徳島県介護支援専門員協会

橋本 美香

講義全体の振り返り

第1章 事例検討会の意義と効果

事例検討会の持つ価値や目的・目標や効果について

第2章 事例検討会の進め方

事例検討会の企画・準備・開催・進行そして振り返り

第3章 さまざまな事例検討会

事例検討会の規模に合わせた開催・効果・課題について

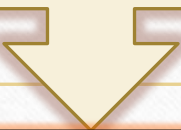
事例検討会の手引きの目的

「知と技術の継承」を全国の介護支援専門員の間で進めていく事が重要



実践値（個別支援を支援するため）の共有と継承に向けて
事例検討会を効果的に運用するための
具体的手法を占めすこと

事例検討会「個別事例の振り返り」で目指すのは



利用者の「自立支援」「重度化防止」を見据え、利用者本人が
「どう暮らしたいか」「どう生きていきたいか」を支えることを主軸に据えるもの



介護支援専門員の「基本姿勢」が研鑽できているかについて互いに再確認し
日々の実践の主軸とすることを見つめなおす機会とすることを目指している。

事例検討会の意義を言葉で説明できますでしょうか

介護支援専門員には利用者の自立支援と自立した暮らしを続けるための地域づくりが求められている。

事例検討
会の開催

経験や視点・
対応の方法
や手段を
可視化
言語化

客観的で論理性
のある支援方法を
明らかにし
支援の質の
平準化

成果：

- ・事例にフィードバック
- ・参加者の共通財産へ
- ・質の高い支援が可能な
人材育成
- ・地域が抱える課題の解決

手引きで扱う事例検討会とは

主任介護
支援
専門員
(特定算定)
が中心

介護支援
専門員
振り返り
共有の機会

うまく展開
できた事例
のノウハウを
可視化
言語化
共有財産化

個々の介護
支援専門員
の支援の
質の向上に
つなげる
機会

個別事例の振り返り、専門性の発揮と質向上へ

①行き詰まった事例を解決する
ヒントが得られ、事例提供者・
参加者の
スキルアップが目指せる

②事例提供者の経験を「疑似体
験」でき、今後担当する事例に
おいても予測される問題や課題
に対応していくことができる

③多職種による専門的視点や
各参加者の多種多様な知識に
基づいた質疑応答によりアセスメ
ントの質を広げることができる

⑦事例を取り巻く地域の課題の
発見につながる

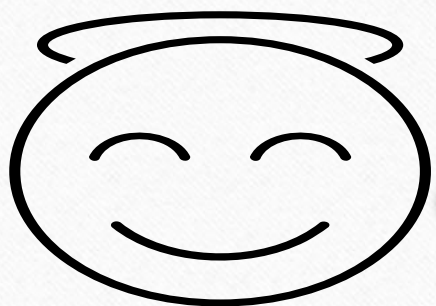
事例検討会 の効果

④参加者全員でアセスメント(見立
て)を行い、それに基づいた具体
的な対応策(手立て)を考えること
ができる。

⑥介護支援専門員の孤独感やストレス
の緩和となり、困ったときに相談でき、
助け合う仲間のネットワーク構築につな
がっていく。

⑤自らの支援を見なおすことで
自分のくせや考え方の偏りを知り、
省察の機会となる

事例検討会の企画 開催
について
改めて
考えてみましょう？



事例検討会の
企画・運営

どの程度の
規模？

介護支援専門員
のレベル？

時間帯は
どうする？

開催の頻度は
どれくらい？

事例を検討するた
めに必要な資料は？

講師やファシリテ
ーターをどうする？

どこの会場で
行う？

会場費、資料印刷
代、講師謝金
参加費は？

職種はどの
職種？

どんな方法？

事例検討会にむけた準備

①事例検討会の
目的に対応できる事例
提供者を決める

②個人特定できない
ように事例を修正し
利用者の同意を得る

③事例提供者に
資料の準備を
依頼する

④事例検討会の
参加者を決める

⑤日時 会場を決め、
参加者に案内する。
出席を確認する。

⑥限られた時間で
活発な意見交換の
ために事前に
資料配布

⑦使用機材、
物品を用意、会場
を整える

⑧司会者、書記を
決定し、スーパーバ
イザーの出席を
求める場合は依頼

タイムテーブルの参考例(2時間の場合)

10分 事例提供者や司会者、参加者の自己紹介や役割分担とアイスブレイク

20分 事例の発表(事例提供者)

5分 事例のテーマや課題の確認(司会者・事例提供者)

30分 質疑応答(なるべく関連づけて質問を重ねる)

5分 課題の再確認

30分 討議・意見交換(参加者)

5分 事例提供者の気づきや学んだことの発表

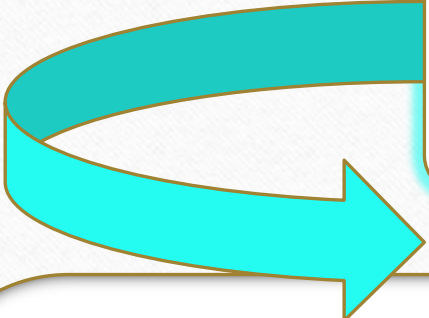
10分 参加者の学んだことの発表

5分 まとめ・振り返り

事例提供者の役割



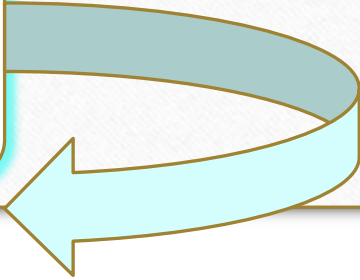
- ・事前に決められた期限までに資料を提出する。
- ・事例検討会当日には、司会の進行に従いながら、事例の
プレゼンテーションをする。
- ・提示した課題の解決のために質疑や討議に対応する。
- ・会場全体で共有するため、最後に事例提供者が自ら、気づきを
言語化して発表する。



司会者の役割とは

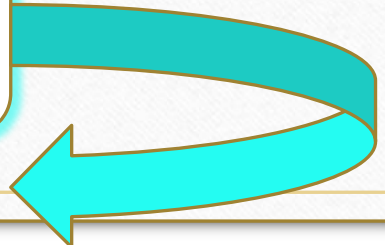
- 検討会の開始にあたりアイスブレイクとして、参加者全員が自己紹介などを行い、デスカッションしやすい場の雰囲気作りをおこなう。
- 時間の管理をしながら進行する。
- 検討すべき課題を参加者全員で共有するため、自己紹介の後、司会者が事例提供者に対して事例の提出理由や検討課題を確認する。
- 検討テーマから外れた発言については発言者に意図を確認する。
- 最後に事例提供者にねぎらいの言葉をかけ、参加者からの意見が課題解決につながったか、参考になったか確認する。

書記の役割



- ・ホワイトボードや模造紙などを利用し、情報や質問や意見を可視化する。
- ・司会者が司会の役割に専念できるよう、出された意見などをタイムリーに可視化する。
- ・事例検討会の記録(事例提供者・司会者・書記・参加人数が事例の概要、どのように学びがあったかなど)は残しておく。
- ・事例検討会にもよるが、逐語録なども残しておくのも良い。

参加者の役割



- ・事例検討会のルールに従い、限られた時間内で終わることができるように積極的に要点をはっきりと発言する。
- ・自分だったらこう考えるというように、参加者自身も内省化できるように考える。
- ・検討会は段階的に進行するため、事例に対する質疑応答の時間、討議や意見交換の時間を十分に意識して進行に協力して発言する。
- ・会場で共有するため、参加者としての学ぶや気づきを言語化し、発表する。



ファシリテーターの役割

- フロアやグループにおける検討・討議を促進させる。
- 司会者や参加者などの役割がそれぞれ発揮でき、学びが深められるように参加者に働きかけていく。
- その事例検討会の目的を把握・理解し、事前に事例に目を通し、準備をする。

事例検討会で得た支援方法を実践に導入する

新たな支援方法を導入した**効果と課題**を次の事例検討会で報告

利用者はどのように
変化したか

(生活の質)

- ・自立度改善
- ・活動範囲
- ・社会参加の度合いの拡大、変化
- ・疾病の再発予防
- ・重度化予防など

家族はどのように
変化したか

- ・利用者本人との関係の変化
- ・介護の負担感
- ・仕事と介護の両立の状況など

介護支援専門員はど
うに変化したか

※スーパービジョン

- ・検討テーマや課題となったケースへの支援方法
- ・自立支援の視点
- ・重度化予防の視点など

成果だけではなく、取り組んだ結果、明らかになった課題も報告する

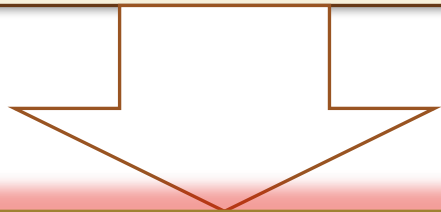
運営の振り返り

- ・事例検討会の手順、検討内容、
検討課題の解決 度合い
- ・開催日程、会場、時間配分、
ファシリテーターの配置数



改善点をふまえ、次回開催につなげる

スーパービジョンは本来、人材育成のために事業所内や
契約関係などバイザーとバイジー間で行われる。



事例検討会の場面においても
スーパービジョンの要素が含まれている。

他法人の居宅支援事業所と合同で実施する事例検討会

介護支援専門員の
思考のプロセスに
焦点を当てると？

介護支援専門
員の資質向上

事例検討会にスーパービジョン
の要素を入れると？

スーパーバイザー(指導者)
の育成効果

①小規模(2～3事業所)開催
(事業所内でも可能)20名以内

事業所同士で企画

メリット:

- ・固定されたメンバーで実施でき、それぞれの力量や経験年数に応じたスーパービジョンが可能

課題:

- ・慣れ合いやマンネリ化しやすい

②中規模(30～40人程度)
(教室程度の会場)

地域の連絡会、包括主催など

メリット:

- ・地域課題の抽出ができる。
- ・事業所外のスーパーバイザーからの助言や介護支援専門員と意見交換し、さまざまな視点が学べる。

課題:

- ・中心となる幹事の抽出

③大規模(概ね50人以上)
(大きな会場が必要)

市町村・介護支援専門員協会

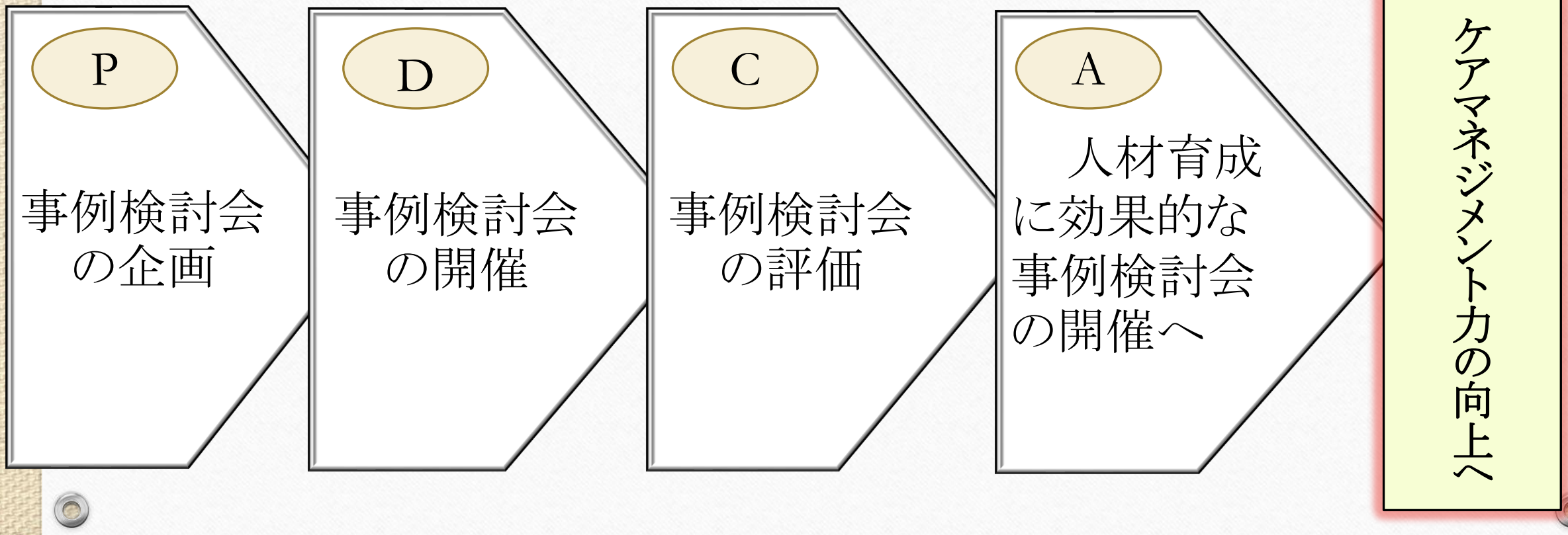
メリット:

- ・地域外の介護支援専門員や多職種と連携できる
- ・自分の地域に持ち帰り更に事例検討会を展開できるようになる

課題:

- 企画や開催準備に時間かかる

事例検討会の進化がケアマネの進化へ



まとめ

本日参加して頂いた方々が主体的に
効果的な事例検討会を企画・開催して頂き
一緒に徳島県下全体のケアマネジメント力
向上に
つなげていきましょう。

ご清聴ありがとうございました

一般社団法人日本介護支援専門員協会
令和2年3月
居宅介護支援事業所における
ケアマネジメント機能向上に資する事例検討会
実践に活かす手引き 引用

